

「神のあわれみ」 ヤコブ2：8～13 堀田修一 21・4・11

I 先行する神の恵み。あわれみ深い神。「私たちが滅びうせなかったのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ。それは朝ごとに新しい」哀歌3：22，23。主のあわれみがなければ、私たちは、とっくに死に、滅んでいます。しかし、今、神に愛され生かされています。何という恵みでしょう！「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物」としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです」Iヨハネ4：10。「私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです」4：19。

II こんなに愛されて、神のあわれみ、赦しを受け続けている私たちの神への感謝の応答。

1. 『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』という最高の律法を守るなら、あなたがたの行いは立派です」ヤコブ2：8。「自分自身のように愛せよ」→神が、愛して下さった自分自身を自分でも愛し、受け入れましょう。私たちには愛はありませんが、神から愛を受けて、隣人を神からの愛で愛せますように。

2. 「もし人をえこひいきするなら、あなたがたは罪を犯しており、律法によって違反者として責められます」：9。人をえこひいきされない主を信じて、その愛の主が私たちのうちに生きておられますから、私たちも人をえこひいきしないように祈りましょう。

3. 「律法全体を守っても、一つの点で過ちを犯すなら、その人はすべてについて責任を問われるからです」：10。『姦淫してはならない』と言われた方は、『殺してはならない』とも言われました。ですから、姦淫しなくても人殺しをすれば、あなたは律法の違反者となっているのです」：10，11。主は、私たちの姦淫の罪、人殺しの罪を負って私たちの身代わりに十字架で死なれたことを深く感謝しましょう。姦淫の罪は体の罪だけではないと主は教えられました。「情欲をいだいて女を見る者はだれでも、心の中ですでに姦淫を犯したのです」(マタイ5：28)。人殺しの罪も実際に殺すことだけではないと主は教えられました。「兄弟に対して怒る者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に『ばか者』と言う者は、最高法院でさばかれます。また、『愚か者』と言う者は火の燃えるゲヘナに投げ込まれます」(マタイ5：22)。実際に人を殺さなくても、人への怒り、憎しみ、恨み、妬み、馬鹿にする態度、えこひいき、人を傷つける言葉の殺人があるのです。そのような意味では、私たちは、何人の人々を殺したことでしょう。主は、これらの私たちの心、目、口で犯す、すべての罪を負って十字架で死んで下さったのです。感謝します。また神は、主を信じる私たちに、罪の赦しだけでなく、新しい性質と御聖霊を与えて下さり、御聖霊は、不品行ではなく「聖さ」を、憎しみ恨みではなく「愛」を生み出し実を結ばせて下さるのです。主にある希望を持ちましょう。「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です」(ガラ5：22，23)。

4. 「自由をもたらす律法によってさばかれる者として、ふさわしく語り、ふさわしく行いなさい」：12。自由をもたらす律法とは→主を信じると律法(聖書の戒め)が必要でなくなるわけではありません。主が律法を成就して下さったので、私たちが救われるための条件としての律法ではなく、

救って下さった神の御心を知り、生活の基準を知るために律法は非常に大切です。では、なぜ自由をもたらず律法と言われているのでしょうか。それは、律法（神の御言葉）を守ろうとする私たちの心が、主を信じると御聖霊により新しくされ続け、同じ律法（聖書）を読んでも、私たちが縛るところか、かえって悪の道からの自由を与える律法、主の恵みへの感謝から道徳律法＝神のみことばが喜びとなるからです。私たち主を信じる者の言動の動機は、主によって救われた喜び、愛とあわれみに満ちた神ご自身を喜び、神を喜ばせたいという愛の心、感謝の心です。息苦しい強制、恐怖心からの服従ではありません。喜びのない窮屈な信仰生活ではありません。キリスト者は、永遠の滅びという神の裁き（黙21：8）に会うことはありません。何という恵み！

5. 「あわれみを示したことの無い者に対するさばきは、あわれみのないさばきです」：13。あわれみを示す愛がなくなった時、私たちがすべきことは？→神の前に静まり、自分自身が、今日まで神の深い憐れみを受け続け、赦され続けている恵みを忘れず深く覚え、心から感謝する時を持ちましょう。そのようにして、神の深い憐れみに満たされ、隣人にあわれみを示すことができますように。「あわれみは、さばきに向かって勝ち誇るのです」→この地上において、主を信じ、神の赦しと憐れみを受け、その受けた憐れみで、他の人を赦し、憐れみを実践した人は、最後の裁きの時に、主から感謝の言葉をいただくことができます。『あなたがたはわたしが空腹であったときに食べ物を与え、渇いていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、わたしが裸のときに服を着せ、病気をしたときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからです。…いつ、私たちは、…食べさせ…飲ませ…宿を貸し…着せて差し上げ…あなたが病気をしたり牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』すると、王は彼らに答えます。『…あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです』マタイ25：35～40。主は、私たちが主からの愛、憐れみを人々に示すのを見ておられ、最後の裁きの時に報いて下さるのです。

6. 「あわれみがさばきに対して勝ち誇るのです」：13。主の十字架の恵みによる私達への救い、赦しこそ、このみことばの先行する恵みの実現です！私達は、自分の数えきれない罪の故に、神の正しい「さばき」を受けて滅ぼされて当然でした。しかし「あわれみ」豊かな神は、罪人の私達をさばき滅ぼす代わりに、ひとり子のイエス様を全人類の罪を背負った罪人としてさばかれ死を与えられました。神の「あわれみがさばきに対して勝ち誇り」さばきを受けて当然の罪人の私達に救いの道、赦しの恵みが開かれたのです。感謝します。

「主は あわれみ深く 恵み豊かである。主は いつまでも争ってはおられない。私たちの罪にしたがって私達を扱うことをせず私たちの咎にしたがって私達に報いをされることもない（これは、イエス様が、私達の罪、咎の為に十字架で私達の身代わりに神の正しいさばきを受けられる恵みがあるから。自分の罪を正直に告白する私達を神は赦されるという意味である）」詩篇 103：8-10。

私達は、人をさばくのに早い者ですが、自分が、これまでどれほど神のあわれみで赦されて来たかを忘れず、他の人に対して、あわれみ深い者に変えられますように祈りましょう。

※神の深い憐れみを受け、人間の愛では不可能な愛、あわれみを他の人に示された証し。